



アメリカンフットボール U20 世界選手権
2024 カナダ大会
報告書



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会



アメリカンフットボール U20 世界選手権大会（報告）

国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）が主催するアメリカンフットボールの U20（20 歳以下）世界選手権が、2024 年 6 月 22 日から 30 日にかけてカナダ・アルバータ州エドモントンで開催された。

大会にはカナダ、米国、日本、オーストリア、豪州、パナマ、ブラジル、カナダ 2 の 7 か国、8 チームが参加。日本は 22 日にクラーク・スタジアムで行われた一回戦で豪州と対戦。50 対 6 の大勝で準決勝進出を決め、26 日にコモンウェルス・スタジアムで行われた準決勝で米国を 41 対 20 で破り、前身の大会（世界ジュニア選手権、U19 世界選手権）から 6 度目の出場ですべて決勝に進出した。日本が IFAF 主催の世界大会で米国に勝つのは初めてだったが、30 日の決勝では 3 連覇を目指す地元カナダに惜しくも 9 対 20 で敗れ、準優勝となった。

■大会概要

大会名称：IFAF アメリカンフットボール U20 世界選手権

主 催：国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）

大会日程：6 月 22 日（土）～30 日（日）

試合日：6 月 22 日（土）1 回戦・日本－豪州ほか、同 26 日（水）準決勝・敗者戦、同 30 日（日）決勝・順位決定戦

開催都市：カナダ・アルバータ州エドモントン

試合会場：コモンウェルス・スタジアム（収容人数 55,000 人）、クラーク・スタジアム（同 3,500 人）

大会方式：8 チームによるノックアウト方式、上下 2 回戦制（各チーム 3 試合ずつ）

参加チーム：カナダ、米国、日本、オーストリア、豪州、パナマ、ブラジル、カナダ 2

大会公式サイト：<https://worldjrfootballchampionships.com/>

2024 IFAF World Junior Championships Schedule

【最終順位】

優勝：カナダ

準優勝：日本

3 位：オーストリア

4 位：米国

5 位：カナダ 2

6 位：豪州

7 位：パナマ

8 位：ブラジル

日付	現地時間	対戦					試合No.
6/22	11:00	CANADA 2	13	vs	41	AUSTRIA	①
	12:00	USA	86	vs	12	PANAMA	②
	16:00	JAPAN	50	vs	6	AUSTRALIA	③
	17:00	CANADA	110	vs	0	BRAZIL	④
6/26	11:00	CANADA 2	63	vs	7	BRAZIL	⑤
	12:00	USA	20	vs	41	JAPAN	⑥
	16:00	PANAMA	0	vs	21	AUSTRALIA	⑦
	17:00	AUSTRIA	20	vs	27	CANADA	⑧
6/30	11:00	7位決定戦 (BRAZIL 14 – 50 PANAMA)					⑨
	12:00	3位決定戦 (USA 25 – 32 AUSTRIA)					⑩
	16:00	5位決定戦 (CANADA 2 45 – 7 AUSTRALIA)					⑪
	17:00	決勝 (CANADA 20 – 9 JAPAN)					⑫

試合結果

【U20 日本代表チームの試合結果】

1回戦 (6月22日)

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	14	9	20	7	50
豪州代表	0	0	6	0	6

準決勝 (6月26日)

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	20	7	7	7	41
米国代表	0	7	6	7	20

決勝 (6月30日)

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	Total
日本代表	3	0	0	6	9
カナダ代表	0	7	3	10	20





GAME REPORT

【1 回戦】

日本代表が豪州をランと守備でねじ伏せ大勝

国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）が主催するアメリカンフットボールのU20（20 歳以下）世界選手権が22日にカナダ・エドモントンで開幕し、1 回戦で日本は豪州に50－6で大勝し、準決勝に進出。26日正午（日本時間27日3時）からの準決勝で米国と対戦する。

日本は第1クォーターにRB蓑部雄望（立命館大学）とRB漆原大晟（同）のTDランで14 点を先取り、第2クォーターにはセーフティーとQB小林伸光（日本大学）からTE矢作一颯（法政大学）へのTDパスで9点を加えて前半を23－0とリード。第3クォーターもQB小林からWR加島禪（関西学院高等部）へのTDパスとRB後藤駿虎（近畿大学）の2TDランで20点を追加し、第4クォーターにはRB内川誠（セントトーマスモア）のTDランで駄目を押した。

この試合の最優秀選手（MVP）にはRB 蓑部が選ばれた。

現地時間 6 月 22 日(土) 16 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	14	9	20	7	50
豪州代表	0	0	6	0	6

ゲームサマリー

U20日本代表は最初のシリーズこそTDを狙ったパスをインターセプトされたが、以降はランで試合を支配。2回目の攻撃機会にRB蓑部雄望（立命館大学）とRB漆原大晟（同）が好ゲインを連発してゴール前に迫り、第1Q6分56秒、蓑部のTDランで先制した。

さらに、先制TD直後の豪州の攻撃機会に、DL阿部剛希（法政大学）がLOSを割り込んでファンブルフォースしたボールをDL藤森元章（日本大学）がリカバー。ゴール前10ヤードからのチャンスを作り、9分10秒にRB漆原がTDランにつなげた。

第2Qは守備がチャンスを作り続けた。豪州が自陣深くでパントスナップをミスしたことにより、U20日本代表はセーフティーで加点。3分8秒のQB小林伸光（日本大学）からTE矢作一颯（法政大学）への17ヤードTDパスは、DB酒井麻陽（関西学院大学）がインターセプトで作った敵陣17ヤードの好位置が起点となった。

前半を23対0と大きくリードしたU20日本代表は、後半に入っても勢いを保ったまま攻め続けた。

後半最初に豪州が投げたロングパスをDB武中虎汰朗（立教大学）がインターセプト。攻撃機会を得たU20日本代表は第3Q2分11秒にQB小林からWR加島禪（関西学院高等部）へのロングTDパスで加点（トライのキックは失敗）。さらにDB白井快（日本大学）のハードヒットで弾き出したボールを押さえて得た敵陣48ヤードからの攻撃機会にはQB菊地慶（法政大学）を起用。TE太田明宏（東京大学）へのパス、漆原のラン、WR/RB内川誠（セントトーマスモア）へのパスでゴール前に迫り、6分20秒にRB後藤駿虎（近畿大学）のTDランにつなげた。後藤は8分15秒にもTDを挙げる活躍だった。

その後、豪州のロングパスに対し、カバーしていたDBが転んでしまうアクシデントで1TDを許したU20日本代表だが、第4Qには内川をRBで起用して時間を消費しながら前進。8分22秒に内川のTDランで50対6とした。ゲームMVPにはRB蓑部が選出された。

日本は現地26日に開催される準決勝に進出。パナマを86対12で破った米国と対戦する。

【試合後コメント】

■大橋誠監督

この後の挑戦権が得られることが一番大切だったので、自分自身としてはホッとしたというのが正直なところ。（選手たちは）最初は緊張している感じも見られたが、攻撃が最初にいいドライブができたことで落ち着き、それを見て守備がよいプレーしてくれた。早いタイミングでエンジンがかかってくれたのが良かった。OLは体を張るというテーマを体現してくれた。守備はブリッツをたくさん使ったわけではないが、スピーディーな動きをすることでプレースピードが上がった。（4日後の米国戦に向けて）元々優勝するには北米のチーム、米国、カナダを破らないと難しいという話をし、準備をしてきた。今日の試合でバグも課題も出たので、それを教材としてより完成度を高めていきたい。

■ゲームMVP RB蓑部雄望（立命館大学）

オーストラリアは体も大きく強そうだったので、試合前は結構ビビっていたのですが、最初のプレーでパスを受けて結構走れたので自分のプレーをすればいけると思ってプレーしました。OLは皆、すごく押してくれたのですごく走りやすかったです。米国は強いと思いますが、自分が走ってチームを勝利に導けるようにしっかり頑張りたいと思います。勝てたのは嬉しいのですが、個人的なミスもあったので米国戦に向けて修正していきたいと思います。



日本代表チーム MVP に輝いた蓑部雄望（立命館大学）

■主なスタッツ

得点経過			
1st	6:56	JPN	7-0 #23 蓑部 3yd Run (#16 中 Kick Good)
1st	9:10	JPN	14-0 #2 漆原 1yd Run (#16 中 Kick Good)
2nd	0:31	JPN	16-0 SAFETY (20yd Fumble into EZ)
2nd	3:08	JPN	23-0 #92 矢作 17yd Pass from #6 小林 (#16 中 Kick Good)
3rd	2:11	JPN	29-0 #3 加島 29yd Pass from #6 (#16 中 Kick No Good)
3rd	6:20	JPN	36-0 #10 後藤 1yd Run (#16 中 Kick Good)
3rd	8:15	JPN	43-0 #10 後藤 5yd Run (#16 中 Kick Good)
3rd	8:28	AUS	43-6 #2 80yd Pass from #17 (#23 Kick No Good)
4th	8:22	JPN	50-6 #26 内川 5yd Run (#16 中 Kick Good)

日本	チーム成績	豪州
427	オフェンス総獲得ヤード数	123
266	ラン獲得ヤード数	15
175	パス獲得ヤード数	151
14	TEAM LOSSES	43
21-13-2	パス回数-成功回数-被インターセプト	22-11-2
30	ファーストダウン回数	5
4-45	ペナルティ回数-喪失ヤード数	9-63
1/1	ファンブル回数-喪失回数	2/2
27:30	TIME OF POSSESSION	20:30

日本 主な個人成績				
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト
小林伸光 (日本大学)	17-10	136	2	1
菊地慶 (法政大学)	4-3	39	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均
漆原大晟 (立命館大学)	10	87	1	8.7
小林伸光 (日本大学)	2	27	0	13.5
後藤駿虎 (近畿大学)	12	67	3	5.6
蓑部雄望 (立命館大学)	7	50	1	7.1
内川誠 (セント-マスモア)	7	35	0	5.0
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均
片桐太陽 (関西学院大学)	1	6	0	6.0
漆原大晟 (立命館大学)	1	5	0	5.0
加島禅 (関西学院高等部)	1	29	1	29.0
リンスコット トバヤス (関西学院大学)	1	14	0	14.0
高橋耀生 (サンディエゴ大学)	1	14	0	14.0
蓑部雄望 (立命館大学)	3	38	0	6.0
内川誠 (セント-マスモア)	1	21	0	12.7
太田明宏 (東京大学)	2	18	0	9.0
岩崎充希 (日本大学)	1	13	0	13.0
矢作一颯 (法政大学)	1	17	1	17.0



トータル 87yds (平均 8.7yds) を獲得した RB 漆原大晟 (立命館大学)



高校三年生で日本代表チームに選出された WR 加島禪 (関西学院高等部) へのロングパス TD



4Q に入り RB として起用されコンスタントにゲインを重ねた内川誠 (セントトーマスモア)



相手守備を完璧にコントロールしたオフェンスラインの谷内志郎 (関西学院大学)、松浦大翔 (中央大学)、菅井隆之介 (関西学院大学)



GAME REPORT

【準決勝】

日本、初めて米国破り決勝へ

国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）が主催するアメリカンフットボールのU20（20歳以下）世界選手権は26日、カナダ・エドモントンで準決勝などが行われ、日本は米国を41－20で破り、前身の大会（世界ジュニア選手権、U19世界選手権）から6度目の出場ですべて初めて決勝に進出した。日本がIFAF主催の世界大会で日本代表が米国代表に勝利したのは史上初の快挙で、30日17時（日本時間7月1日8時）からの決勝では3連覇を目指す地元カナダと対戦する。

現地時間 6月26日(水) 12時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	20	7	7	7	41
米国代表	0	7	6	7	20

ゲームサマリー

CFL エドモントン・エルクスの本拠、コモンウェルス・スタジアムで行われた試合は、序盤から日本代表がビッグプレーを連発してたたみかけた。

米国代表の最初の攻撃を守備が食い止めた日本代表は、自陣 36 ヤードから攻撃権を獲得。このシリーズは一度、第 1 ダウンを更新しただけでパントとなったが、P 中勇大（関西学院高等部卒）が蹴ったパントを、WR 高橋耀生（サンディエゴ大学）がゴール前 1 ヤードで押さえて米国を自陣深くに押し込むことに成功。さらに、米国は交代違反の反則で罰退。日本守備は米国が展開したランに対して、DL 馬久地匠（関西学院大学）が捉えてボールをはじき出すと、LB 東駿宏（関西大学）がエンドゾーン内でリカバー。第 1Q3 分 16 秒に先制 TD を挙げた。

さらに、自陣 27 ヤードから始まった次の攻撃機会には QB 小林伸光（日本大学）から WR リンスコット・トバヤス（関西学院大学）へのロングパスで一気に敵陣 12 ヤードに進行。このチャンスを RB 蓑部雄望（立命館大学）の 1 ヤード TD ランにつなげて加点した。

日本代表の猛攻は止まらなかった。反撃を試みた米国代表のパスに DB 東田隆太郎（関西学院大学）が飛びつきインターセプト。敵陣 29 ヤードの好機を創出。RB 漆原大晟（立命館大学）がパワープレーで一気にゴール前 16 ヤードに運び、9 分 36 秒、小林からリンスコットへの 16 ヤード TD パスにつなげた（トライキック失敗）

第 1Q で 20 点の大幅リードを奪った日本代表は、第 2Q、自陣 20 ヤードから始まった攻撃機会に WR 百田真悟（関西学院大学）へのパスでシリーズを更新すると、4 分 3 秒に RB 漆原が 69 ヤード独走 TD。27 対 0 と 4 ポゼッション差を作った。しかし、米国代表もこのままでは終わらなかった。前半終了間際、攻撃がボールの受け渡しをミスしてターンオーバーを喫したのをきっかけに、前半終了 39 秒前に 1 TD を返されてしまう。さらに後半開始のキックオフで米国代表が意表を突くオンサイドキックを成功。日本代表守備がもたついたところにロングパスで攻め込まれ、後半開

始わずか 21 秒で TD パスを決められてしまった（トライキック失敗）。

日本代表は自陣 25 ヤードから始まった攻撃に、RB 漆原のラン、QB 菊地慶（法政大学）から TE 矢作一颯（法政大学）へのパス、RB 蓑部へのパスでシリーズ更新を重ねて敵陣に進行。さらに漆原のランで敵陣 28 ヤードまで進んだが FG を失敗。チャンスをものにできない嫌な雰囲気は漂いはじめた。

1 つのプレーで形勢が逆転しかねない 2 ポゼッション差という緊迫感に満ちた状態を打開したのは自陣 20 ヤードから始まった次の攻撃機会だった。TE 矢作へのシャベルパスで敵陣に進行すると、蓑部のランでシリーズを立て続けに更新。このシリーズは第 3Q10 分 5 秒に RB 漆原が中央を突いて TD。34 対 13 と再び 3 ポゼッション差とした。

しかし、米国代表も簡単には折れなかった。第 3Q 終盤から続いた米国の攻撃に第 4Q1 分 1 秒、TD を許して 34 対 20。再び試合は緊迫した状況になった。さらに米国は自陣 6 ヤードから始まった攻撃機会に、パント体型からパスを決めるなどジリジリと前進。しかし、LB 瀧川元熙（法政大学）の好タックルなどがあり、米国陣 46 ヤードでシリーズ更新を阻止。日本は残り 3 分 24 秒に RB 後藤駿虎（近畿大学）が中央を貫く 31 ヤード TD ランを決めて初の決勝進出を確実なものにした。

ゲーム MVP はパス 13 投 7 回成功 100 ヤード 1TD0 被 INT の活躍を演じた QB 小林が受賞した。

このゲーム後に行われた準決勝第 2 試合、カナダ対オーストリアの一戦はカナダが勝利。日本代表は現地時間 30 日 17 時（日本時間 7 月 1 日 8 時）に、優勝を懸けてカナダと対戦する。

【試合後コメント】

■ 大橋誠監督

本当に選手がよく体を張って頑張ってくれました。結果に結びついてよかった。（米国代表は）個々のタレントは米国の選手らしい選手だった。今までは我々がオーガナイズドされたチームを作っても、個々の力で負けてしまうケースが多かった。しかし、今回は 1 対 1 の勝負でやられる部分もあったものの、こちらがやれている部分もあった。何よりも第 1Q にある程度のリードがとれたことが一番の勝因だと思います。終盤 2 ポゼッション差の場面はセーフティリードではなかったので、守りに入らず攻撃をしてくれたのでそれが良かった。

前半にミスから失点しまったこと、後半の入りにはバタついたところはまだまだチームとして練りきれていないところ。当然、相手がうまくやった部分はあるが、我々自身が集団心理的にあわてってしまったところがあった。これも決勝に向けてはいい経験。

決勝の相手はカナダかオーストリアになるが、どちらのチームもしっかりとオーガナイズドされたチームであるという印象。我々の力が出しやすいものをどれだけ相手に当てられるかという勝負になると思います。

■ゲーム MVP QB 小林伸光（日本大学）

めちゃめちゃ嬉しいです。米国をこの点差で倒すことができたのは初めてのことで、誇りに思います。試合の入りは緊張したのですが、フィールドに立ったら『やっと米国とできる』という気持ちが強くなって、緊張は忘れて楽しくプレーすることができました。1シリーズ目は少し緊張気味で固まっていたのですが、2シリーズ目からは自分のプレーができました。ロングパスは決めることができましたが、決まっていないものが多かったので次の試合までに改善していきます。自分自身、試合をするのは約1年ぶりぐらいだったので、その場の雰囲気になれるのは大変かなと思ったのですが、それを楽しめればと思ってやってきました。日本代表のチームメイトは上下関係もなく言い合える関係なので、一緒にプレーしやすいですし、気持ちがいい仲間です。今日は米国に勝ったことを喜んで、明日から切り替えて、決勝で自分なりに日本代表の攻撃の魅力を出せるように練習していきたいと思います。



ゲーム MVP を受賞した QB6 小林伸光（日本大学）

■主なスタッツ

得点経過					
1st	3:16	JPN	7-0	#51 東	1yd Fumble Return (#16 中 Kick Good)
1st	6:28	JPN	14-0	#23 蓑部	1yd Run (#16 中 Kick Good)
1st	9:03	JPN	20-0	#4 リンスコット	16yd Pass from #6 小林 (#16 中 Kick No Good)
2nd	4:03	JPN	27-0	#2 漆原	69yd Run (#16 中 Kick Good)
2nd	11:21	USA	27-7	#5	2yd Run (#15 Kick Good)
3rd	0:21	USA	27-13	#17	22yd Pass from #4 (#15 Kick No Good)
3rd	10:05	JPN	34-13	#2	10yd Run (#16 中 Kick Good)
4th	1:01	USA	34-20	#3	20yd Run (#15 Kick Good)
4th	8:36	JPN	41-20	#10 後藤	31yd Run (#15 Kick Good)

日本	チーム成績	カナダ
402	オフェンス総獲得ヤード数	475
303	ラン獲得ヤード数	204
131	パス獲得ヤード数	271
32	TEAM LOSSES	0
20-12-0	パス回数-成功回数-被インターセプト	44-24-1
23	ファーストダウン回数	15
3-5	ペナルティ回数—喪失ヤード数	6-29
0/0	ファンブル回数-喪失回数	1/1
27:30	TIME OF POSSESSION	20:30

日本 主な個人成績

選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト
小林伸光 (日本大学)	13-7	100	1	0
菊地慶 (法政大学)	7-5	31	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均
漆原大晟 (立命館大学)	17	158	2	9.3
菊地慶 (法政大学)	2	13	0	6.5
小林伸光 (日本大学)	1	0	0	0.0
後藤駿虎 (近畿大学)	5	48	1	9.6
高橋耀生 (サンディエゴ大学)	1	12	0	12.0
菱部雄望 (立命館大学)	11	72	1	6.5
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均
リンスcott トバヤス (関西学院大学)	2	67	1	33.5
後藤駿虎 (近畿大学)	1	-4	0	-4.0
百田真悟 (関西学院大学)	1	8	0	8.0
高橋耀生 (サンディエゴ大学)	1	15	0	15.0
菱部雄望 (立命館大学)	5	22	0	4.4
矢作一颯 (法政大学)	2	23	0	11.5



51 ヤードのロングパス捕球と 16 ヤード TD パス捕球を決めた主将 WR4 リンスcott・トバヤス (関西学院大学)



69 ヤード独走 TD を含む 17 回走 158 ヤード 2TD の活躍だった RB2 漆原大晟 (立命館大学)



反撃を試みた米国代表のパスに、モメンタムを確実に引き寄せた DB 東田隆太郎 (関西学院大学) のインターセプト。



LB 東駿宏 (関西大学) がエンドゾーン内でリカバー。第 1Q3 分 16 秒に先制 TD を挙げた。



GAME REPORT

【決勝】

日本、カナダに敗れ準優勝

国際アメリカンフットボール連盟（IFAF）が主催するアメリカンフットボールのU20（20歳以下）世界選手権最終日は6月30日（日本時間7月1日）、カナダ・エドモントンで行われ、日本は決勝でカナダに9-20で敗れ、準優勝となった。ただし、準優勝とはいえ、前身の大会（世界ジュニア選手権、U19世界選手権）から6度目の出場で、今回が過去最高の成績（これまでの最高は3位）。カナダは3大会連続4度目の優勝で、3位決定戦はオーストリアが米国を破った。

この試合の日本側の最優秀選手（MVP）にはDB東田隆太郎（関西学院大学）が選ばれた。

現地時間 6月30日(火) 17時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	3	0	0	6	9
カナダ代表	0	7	3	10	20

ゲームサマリー

カナダ・アルバータ州エドモントンで開催されている IFAF アンダー20（U20）世界選手権は6月30日、最終日を迎えた。

決勝の U20 日本代表とカナダの試合は、9 対 20 でカナダが勝利。日本代表は優勝にあと一步及ばず。カナダは U19 世界選手権時代から通算で 3 大会連続 4 回目の優勝を遂げた。

コイントスに勝って後半の選択権を選んだ日本代表は粘りに粘った。試合開始のキックオフをいきなり日本陣 44 ヤードまで戻されたが、DB 中勇大（関西学院高等部卒）のパスカットでパントに追い込んだ。

日本代表は QB 菊地慶（法政大学）を先発起用。自陣 11 ヤードから TE 太田明宏（東京大学）、RB 蓑部雄望（立命館大学）、TE 矢作一颯（法政大学）へのパスを決めて 50 ヤードまで前進。さらに敵陣 41 ヤード地点での第 3 ダウン 1 ヤードを RB 漆原大晟（立命館大学）のランで突破。さらにオプションピッチを受けた蓑部が敵陣 33 ヤードまで進んだ。

このシリーズはパントとなったが、中の蹴ったボールを WR 高橋耀生（サンディエゴ大学）がゴール前 1 ヤードで押さえてカナダにゴールライン間際からの攻撃を強いることに成功。直後のカナダの攻撃を 3 ダウン & アウトに追い込み、日本代表はカナダ陣 42 ヤードからの攻撃機会を獲得。RB 蓑部のランなどで敵陣 27 ヤードまで進んだところで第 1Q 8 分 38 秒、K 中が 44 ヤード FG を決めて先制した。

日本守備は DL 中山功乙（近畿大学）のロスタックルで再びカナダをパントに追い込む。しかし、自陣 39 ヤードからの攻撃機会にインターセプトを喫し、カナダに日本陣 39 ヤードの攻撃起点を献上してしまう。これを第 2Q 開始 5 秒で逆転 TD に結び付けられてしまった。

日本はランと WR 百田真悟（関西学院大学）へのパス、菊地のスクランブルなどで前進。敵陣まで攻め込んだが

得点を挙げる事ができず。しかし、中のパントは再びカナダをゴール前 3 ヤードに押し込めた。日本代表守備はシリーズ更新を許したもののパントに追い込んだ。前半終了間際のカナダの攻撃は DB 酒井麻陽（関西学院大学）のインターセプトで断ち切り、前半は 3 対 7 の拮抗が保たれていた。

第 3Q に入るとカナダはランを中心に展開。日本代表守備は粘り強いタックルを繰り返すが、第 3Q7 分 26 秒に 35 ヤード FG を決められて 3 対 10 とリードを広げられた。

日本代表の攻撃は QB 菊地が負傷退場。代わって登場した QB 小林伸光（日本大学）のパスで反撃を試みるが、インターセプトを喫してしまい、なかなかチャンスをものにできない状況が続く。守備は、第 3Q 終盤に DB 東田隆太郎（関西学院大学）のブリッツによるロスタックルでフィールドポジションを作ろうとしたが、カナダに好パントを蹴られてなかなか好機を作りだせず。カナダの執拗なラン攻撃に粘って対抗し続けたが、第 4Q8 分 2 秒に 23 ヤード FG を決められて 3 対 13 と 2 ポゼッション差になった。

残り時間を考えると、リスクを背負うしかなくなった日本代表は、自陣 20 ヤードからの攻撃で 4 度パスを失敗。カナダはその直後に TD ランを決め 3 対 20 とした。

しかし、日本代表は最後まで勝利を諦めなかった。残り時間は 3 分 16 秒。自陣 20 ヤードから QB 小林が WR 高橋、リンスコット・トバヤス（関西学院大学）、岩崎充希（日本大学）へとパスを決めて得点圏に進行。終了 1 分 14 秒前に小林から高橋への 9 ヤード TD パスを決めた（トライキック失敗）。しかし、一縷の望みを懸けたオンサイドキックをカナダに押さえられ、勝敗が決した。

ゲーム MVP は 6.5 タックル 1QB サックで日本守備の粘りを支えた DB 東田が受賞した。

【試合後コメント】

■ 大橋誠監督

選手もコーチも本当によく頑張ってくれたが、詰め切れないところをきっちり詰めていかないと、こういう大会では勝ち切れないということがよく分かった。（QB 菊地を先発させたのは）大きいプレーを狙うより、小さいプレーをしっかりつないでいくということであると、菊地の方が向いているのではということだった。久しぶりの国際大会で、選手たちは初めてという中でよくアジャストしてくれ、特に渡航後の成長度合いが素晴らしいだったので、今後に向けて有意義な大会になったと思う。



初の準優勝に導いた大橋誠監督（中京大学 HC）

■ ゲーム MVP DB 東田隆太郎（関西学院大学）

ただ単に悔しい。守備は抑えたところもあったが、（相手のランプレーは）分かっているけど止められなかった。自分よりフィジカルが強い相手と戦うことができたので、この 1 対 1 の強さを（自分の）チームにも共有し、次は（関西学院大学）ファイターズで日本一を目指せるようにやっていきたい。



ゲーム MVP を受賞した DB1 東田隆太郎（関西学院大学）

■主なスタッツ

得点経過				
1st	8:38	JPN	3-0	#16 中 44yd Field Goal
2nd	0:05	CAN	3-7	#5 13yd Run (#27 Kick Good)
3rd	8:38	CAN	3-10	#27 35yd Field Goal
4th	8:02	CAN	3-13	#27 23yd Field Goal
4th	8:44	CAN	3-20	#26 12yd Run (#27 Kick Good)
4th	10:46	JPN	51-14	#22 高橋 9yd Run (#16 Kick No Good)

日本	チーム成績	カナダ
264	オフェンス総獲得ヤード数	251
93	ラン獲得ヤード数	164
177	パス獲得ヤード数	104
6	TEAM LOSSES	17
33-14-2	パス回数-成功回数-被インターセプト	19-8-1
16	ファーストダウン回数	14
1-5	ペナルティ回数-喪失ヤード数	3-35
0/0	ファンブル回数-喪失回数	0/0
23:32	TIME OF POSSESSION	24:28

日本 主な個人成績				
選手名	パス試投-成功	獲得ヤード	TD	インターセプト
菊地慶 (法政大学)	14-6	73	0	1
小林伸光 (日本大学)	19-8	104	1	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均
漆原大晟 (立命館大学)	2	4	0	2.0
菊地慶 (法政大学)	2	8	0	4.0
小林伸光 (日本大学)	1	1	0	1.0
後藤駿虎 (近畿大学)	6	8	0	1.3
蓑部雄望 (立命館大学)	14	72	0	5.1
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均
リンスコット トバヤス (関西学院大学)	1	27	0	27.0
百田真悟 (関西学院大学)	4	36	0	9.0
小林蹴人 (佼成学園高校)	1	8	0	8.0
高橋耀生 (サンディエゴ大学)	2	30	0	15.0
蓑部雄望 (立命館大学)	2	20	0	10.0

太田明宏（東京大学）	1	19	0	19.0
岩崎充希（日本大学）	2	23	0	11.5
矢作一颯（法政大学）	1	14	0	14.0



先制 FG を決めた K16 中勇大（関西学院高等部卒）。DB、P としても活躍した



タフなカナダの攻撃に粘り強いタックルで対抗した日本代表。DB1 東田降太郎（関西学院大学）



終了間際に 9 ヤード TD レシーブを決めた WR22 高橋耀生（サンディエゴ大学）



表彰式でトロフィーを受け取る、主将 WR4 リンスコット トバヤス（関西学院大学）と副将 DL91 曾田空都（日本大学）

アメリカンフットボール U20 世界選手権大会 日本代表 選手、コーチ、スタッフ

■選手 (45人)

番号	Pos.	氏名	ふりがな	学校	学年	身長	体重	生年月日	年齢
0	WR	片桐 太陽	かたぎり・たいよう	関西学院大学	1	178	75	2005/6/13	18
1	DB	東田 隆太郎	ひがしだ・りゅうたろう	関西学院大学	3	185	90	2004/2/13	20
2	RB	漆原 大晟	うるしばら・たいせい	立命館大学	1	172	76	2006/2/19	18
3	WR	加島 禅	かしま・ぜん	関西学院高等部	高3	183	86	2006/4/3	18
4	WR	リンスコット トバヤス	りんすこつと・とばやす	関西学院大学	2	180	79	2004/7/14	19
5	QB	菊地 慶	きくち・けい	法政大学	2	176	82	2004/6/6	19
6	QB	小林 伸光	こばやし・のぶあき	日本大学	2	174	77	2004/5/23	20
7	DB	永井 慎太郎	ながい・しんたろう	関西学院大学	2	173	77	2004/12/14	19
8	DB	酒井 麻陽	さかい・あさひ	関西学院大学	3	181	83	2004/1/15	20
9	DL	竹原 太一	たけはら・たいち	桃山学院大学	1	178	98	2005/4/30	19
10	RB	後藤 駿虎	ごとう・しゅんご	近畿大学	2	169	75	2004/11/30	19
11	WR	百田 真悟	もまた・しんご	関西学院大学	2	178	85	2004/10/21	19
13	DB	吉田 優太	よしだ・ゆうと	関西大学	2	177	77	2004/5/16	20
14	DB	山本 依武希	やまもと・いぶき	立命館宇治高校	高3	178	74	2006/12/28	17
16	DB/K/P	中 勇大	なか・ゆうだい	関西学院高等部卒		183	87	2005/7/8	18
17	DB	武中 虎汰朗	たけなか・こたろう	立教大学	3	182	80	2004/3/16	20
18	WR	小林 蹴人	こばやし・しゅうと	佼成学園高校	高3	175	72	2006/6/29	17
19	DB	伊東 利晃	いとう・としあき	関西学院大学	2	184	86	2004/2/19	20
22	WR	高橋 耀生	たかはし・ようせい	サンディエゴ大学	2	170	79	2004/4/28	20
23	RB	蓑部 雄望	みのべ・たけみ	立命館大学	2	169	71	2004/8/23	19
26	RB	内川 誠	うちかわ・まこと	セントトーマスモア	2	177	87	2004/9/17	19
27	DB	杉田 俊	すぎた・じゅん	早稲田大学	3	181	81	2004/1/8	20
33	LB	関 拓真	せき・たくま	明治大学	1	171	84	2005/11/27	18
34	TE	太田 明宏	おおた・あきひろ	東京大学	3	188	101	2004/3/5	20
38	DB	白井 快	しらい・かい	日本大学	2	178	83	2004/5/7	20
41	LB	瀧川 元照	たきかわ・はるき	法政大学	2	175	92	2005/2/23	19
44	DL	馬久地 匠	めくち・たくみ	関西学院大学	2	170	98	2004/5/23	20
49	LB	中西 智琉	なかにし・さとる	近畿大学	2	180	83	2004/9/21	19
51	LB	東 駿宏	ひがし・としひろ	関西大学	2	175	103	2004/10/1	19
62	OL	笠嶋 将瑛	かさじま・しょうえい	近畿大学	2	184	123	2004/5/22	20
70	OL	鷺尾 耕太郎	わしお・こうたろう	日本体育大学	2	190	110	2004/12/28	19
71	OL	谷内 志郎	たにうち・しろう	関西学院大学	2	191	122	2004/10/22	19
73	OL	松浦 大翔	まつうら・だいと	中央大学	2	188	116	2005/2/17	19
75	OL	岩戸 旦和	いわと・あしたか	慶應義塾大学	2	190	118	2004/5/21	20
76	OL	門谷 祐希	かどたに・ゆうき	甲南大学	2	180	113	2004/11/17	19
77	OL	宮川 正義	みやがわ・せいぎ	立命館大学	2	190	125	2005/3/15	19
79	OL	菅井 隆之介	すがい・りゅうのすけ	関西学院大学	3	185	115	2004/1/15	20
80	WR	岩崎 充希	いわさき・みつぎ	日本大学	2	174	74	2004/4/28	20
90	DL	野村 晃誠	のむら・こうせい	立命館大学	2	176	113	2004/5/12	20
91	DL	會田 空都	あいだ・そらと	日本大学	2	179	104	2005/1/28	19
92	TE	矢作 一颯	やはぎ・いぶき	法政大学	2	177	96	2005/2/25	19
95	DL	中山 功乙	なかやま・いさお	近畿大学	2	179	105	2004/9/14	19
97	DL	藤森 元章	ふじもり・もとあき	日本大学	2	172	100	2005/1/22	19
98	DL	津乗 諒輔	つのもり・りょうすけ	立命館大学	3	178	116	2004/3/19	20
99	DL	阿部 剛希	あべ・ごうき	法政大学	2	176	115	2004/9/11	19

※年齢は2024年6月4日現在

■スタッフ（20人）

役職	氏名	ふりがな	所属
監督	大橋 誠	おおはし・まこと	中京大学
オフェンスコーディネーター	藤田 智	ふじた・さとし	京都大学
オフェンスコーチ	大村 和輝	おおむら・かずき	関西学院大学
オフェンスコーチ	高田 鉄男	たかた・てつお	パナソニック
オフェンスコーチ	勝山 晃	かつやま・あきら	富士通
ディフェンスコーディネーター	池上 祐二	いけがみ・ゆうじ	オービック
ディフェンスコーチ	古庄 直樹	こしょう・なおき	立教大学
ディフェンスコーチ	木下 裕介	きのした・ゆうすけ	立命館宇治高校
チームドクター	金子 博徳	かねこ・ひろのり	北里大学北里研究所病院
ヘッドトレーナー	富樫 司	とがし・つかさ	オービック
トレーナー	田中 伸一郎	たなか・しんいちろう	胎内
トレーナー	鈴木 克明	すずき・かつあき	富士通
トレーナー	細川 恵利	ほそかわ・えり	オレゴン州立大学
トレーナー	末田 真佑	すえだ・まゆ	法政大学
マネジャー	大鳥 涼夏	おおとり・すずか	中央大学
マネジャー	助川 颯希	すけがわ・そうき	早稲田大学
マネジャー	牧野 星羅	まきの・せいら	法政大学
ゼネラルマネジャー	森 清之	もり・きよゆき	日本協会
CDM	山田 晋三	やまだ・しんぞう	日本協会
CDM	松尾 博一	まつお・ひろかず	筑波大学

■U20 日本代表 チーム概要

主 管：公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協 力：日本学生アメリカンフットボール協会、日本高等学校アメリカンフットボール連盟

協 賛：株式会社ビジョン（GLOBAL WiFi）、株式会社ドームメディカル（DMedical）

選手資格：①日本国籍を有すること

②2024年12月31日時点で、18歳以上20歳以下であること

（2004年1月1日～2006年12月31日生まれ）

派遣人数：選手45名、コーチおよびスタッフ20名

遠征日程：【関西組】6月19日（水）NH34 伊丹16時50分発 羽田18時10分着

6月19日（水）NH116 羽田21時55分発 バンクーバー14時50分着

6月19日（水）AC250 バンクーバー19時40分発 エドモントン22時13分着

帰 国 便：7月1日（月）AC241 エドモントン12時40分発 バンクーバー13時18分着

7月1日（月）NH115 バンクーバー16時45分発 羽田2日（火）19時00分着

【関西組】7月2日（火）NH99 羽田21時00分発 関空22時20分着

◇強化練習

日 時：6月8日（土）11時50分選手集合、16時終了

6月9日（日）11時10分選手集合、16時終了

会 場：関西学院大学第3フィールド（兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155）

■ 関連ウェブサイト

- ◇大会公式サイト：<https://worldjrfootballchampionships.com/>
- ◇日本代表公式サイト：<https://japan.americanfootball.jp/>
- ◇国際アメリカンフットボール連盟公式サイト：<https://www.americanfootball.sport/>
- ◇日本協会公式サイト：<https://americanfootball.jp/>
- ◇日本協会公式 Facebook：<https://www.facebook.com/JAFA1934/>
- ◇日本協会公式 Instagram：<https://www.instagram.com/jafa1934>
- ◇日本協会公式 X（旧 Twitter）：<https://x.com/jafa1934>



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会